

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム らい鳥		
所在地	北海道旭川市末広4条7丁目5番5号 末広介護支援館ANNEX2・3階		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員・入居者のみなさんと、ふれあう時間を設け、みんなで楽しむ時間がある点。</li> <li>・毎日、午前・午後に体操を行い筋力低下防止に努め認知症予防も図っている点。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901407&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901407&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市内北部の住宅街に位置し、道路向かいには同系列の病院やグループホーム・小規模多機能施設などがあり、医療を含めた総合的なケアが実践できるホームである。バス停やスーパーがすぐ傍にあり、家族の来訪や散歩・買い物にと利便性も良い地域でもある。職員は「楽しく」「すまいる」「健康」「安心」「いたわり」⇒「た・す・け・あ・い」の気持ちでケアにあたっていると笑顔で話してくれている。そのことは利用者と共に和気藹々と明るく接している様子から感じることができ、まさに理念でもある「穏やかな暮らしの継続」を実践している。又、地域密着型として地域で生きる意味を常に問いかけ、地域づくりに向けた関係づくりに取り組んでいる。若い管理者の下、ベテランの職員も多く、寒さに強い「らい鳥」のように強く連なって羽ばたいて行かれることを期待している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中には組み込まれており、共有もしている。実践としては実際的には不十分ではある。	運営理念とケア理念を基に各ユニット毎の目標を決め、またそれを個人目標として作成し話し合い、具体的なケアに結び付けている。それらは各フロアに掲示してあることで、常に意識付けされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、社会福祉協議会が主体している ふれあいサロン に2か月ごとに参加していたが去年の夏頃より職員不足により参加が出来ない状況となっている。	散歩や買い物に出かけた際に、地域の方たちとは気軽に挨拶を交わしたり、話をしたりしている。しかし町内会未加入など、色々働きかけてはいるが、町内会からの理解にまでは至っていない。	共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動を積極的に担っていくためにも、地域活動の情報を集め、参加し接点を持つなど、更なる地域との交流に取り組まれることを期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催自体出来ていない。	働きかけは行っているのだが、地域としての理解が困難なために開催するまでには至っていない。	厳しい経営環境の中で、全てをホームが背負うのではなく、運営推進会議を通じた情報連携・意見交換・可能性の検討を通してホームが地域・家族の力を借りながら、まずは小さな一歩から始め、新たな支援方法を見つけて行かれることを期待している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行った事がない。 具体的にどの様な事を伝えていけば良いのかも正直判らず。	地域とのつながりのための助言やアドバイスをもらいに、地域包括支援センターや市へ訪問している。今後も継続し、連携を強化して一緒に取り組んでもらうよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアへの取り組みへ対応している。必要となる場合においても十分に検討・拘束廃止に向けての細やかな検討に努めている。	毎月身体拘束委員会を実施し、検討している。止むを得ない場合にも家族から承諾書を貰い、その書面には長期間にならないように開始日と解除日を明記し、日々のケアの中で点検している。また言葉遣いも個人目標として立てるなど、職員として共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を毎年設けて管理者・職員共に学んでいる。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	去年、成年後見制度についての講習会にケアマネ・管理者で参加をしている。関係者との話し合いまでには至ってはいない。活用としても行いは未だない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、契約書に目を通して貰いながら口頭説明を必ず行っている。不安の確認までは行えていなかった。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から運営に関して意見を介す機会はいまだに無し。	毎月「笑顔の花」広報誌が発行され、特に面会の少ない家族には大変喜ばれている。面会時には状況報告と共に、何でも言ってもらえる関係づくりに努めている。小さな意見でも全員で検討するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案を聞かす機会を設けたことはない。業務に関する意見・提案などは日頃から有るものの、運営という点での意見というのは難しい。	理念を掘り下げた個人目標を設定し、反省会を通して一緒に話し合い検討し質の確保に繋げている。日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ、問いかけ、聞き出ししたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表の取り入れ・勤務状況・時間等の把握はされている。職場環境・条件についても極力対応を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所主催の研修への参加もあり。ケアの実際の把握・力量の把握については、難しい点がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加に留まる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションが取れる分には対話を設けており、難しい分には日頃の状態を視て対応をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時を利用して行っている。状況により都度、行っていることもある。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り対応に努めている。本人・家族からの意向が無い場合においても状況を見、支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉での表現は難しいが、介護のみの関係性とは見ていない。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援の形は多様であるが出来る範囲での協力をして下さっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来訪される分には対応をしている。場所については、身体的な事柄を理由に行きたがらず。	重度化に伴い理美容など、訪問という形になることが多いが、要望に合わせて対応するようにしている。電話の取次ぎをしたり、家族には広報誌を通じてつながりを継続できるよう呼びかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、全員でおやつの時間を利用して関わり合いの支援をしている。場面により支えあっている姿も見られる。関係性についても把握出来てはいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の支援を対応した事は無かった。終了後に何か有れば連絡を下さい・・・との言葉は毎回伝えてはいる。長期入院による退去後、空室があれば再入居の希望者があった際には対応を行えたのはあったが。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望する思いを大切にすると共に、ケアプラン作成時に必ず職員全体で、対象者の意向を汲み捉える検討会を開いている。また、事前に各担当者が先に検討しておく等、二重に検討を行っている。	日々のかかわりの中で本人・家族の意向を汲み取るようにしている。その内容も利用者自ら発した言葉を記載することで、思いを明確にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聞き取りをおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人に記録を録っており日に二度状況を申し送っている。毎年、基本情報の記入を行い職員全体で把握も行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への意向確認・見極めを含む本人からの意向を軸に課題・ケアの方向性を検討・計画している。モニタリングについては、毎月、担当者により行い日々の生活の様子・日々の発言から察しモニタリングし、ケアマネージャー以外の職員も関わる事で内容の状況把握に努めている。	日々のケアの中でアンテナを張り巡らせ、職員全員で話し合い作成している。3か月毎に見直されており、課題としての取り組みも日々の記録に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時に気づき・情報交換・確認の話を行っているが記録へのケアの結果・気づき・工夫は不足している。様子については記入できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支えていた地域資源の把握が出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	こちらから掛かりつけ医を決めた事は無いが施設としての連携医療機関の説明をし家族の判断・承諾の許に受診をしている。その他の医療機関への受診についても同様である。	系列病院の退院者が多いことや通院方法や待ち時間などを考慮し、家族の理解を得た上で系列の病院に行くことが多くなってきている。他科の通院の場合には同行するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医師による往診があり、そちらが主体となっている為、訪問看護師への相談は少ない。訪問看護師による記録チェックはあり。状態把握をされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	中々、内容的な事は出来ていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針についての承諾は入居契約時に一緒に説明し結んでいるが、終末期に関しての内容は中々出来ていない。	対応指針は整備され、入居時に説明し、承諾を得ている。本人家族の意向を踏まえ、医師・訪問看護師と連携を取りながら、納得した最後を迎えるように、随時意思を確認するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	去年より火災において全職員・全入居者を対象とした避難誘導の訓練を毎月行っている。(まずは、夜間独り体勢を想定した訓練) 地震・水害に対しての避難訓練は未だである。 地域との協力は出来ていない。	毎月避難訓練があることにより、スムーズな動きができるようになっており、近くの系列施設とは合同ミーティングを通して協力体制が布かれている。3階には「オリロー」という避難器具も整備され、窓からの脱出も可能になっている。	火災だけでなく色々な災害が想定される。備蓄用品の確保と共に、職員だけでの誘導の限界を確認し、具体的な支援体制の整備に向けて地域と相互扶助としての協力関係を構築されることを期待している。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が注意を払ってはいるが言葉選び・強さに難がある時も多少あり。繰り返し互いに注意をしている状態である。	個別目標として言葉遣いを掲げている職員もおり、他の職員の目に触れることで自らの戒めとしている。個人情報も特定されないように部屋名を用いる配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出が少なくなって来てしまっているが、行動を促す時等には言葉を掛け意思の確認や了承を得る様にしている。自己決定を引き出そうとしても、こちらでの決定を望まれる事も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り行おうとはしているが常に人材不足の事もあり十分な対応とはいえない。出来る限り対応したくケアプランにも取り込み希望に添えられるようにしてはいる。 その日毎の希望確認までは出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、お化粧をしている方には化粧品を切らさない様に支援・毎月、訪問内容による理髪を行い支援している。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材確保を他事業所をお願いしており栄養面での管理もして貰っている為、毎日の食材に好みを取り入れる事は難しい。その分も含み外食行事を取り入れ楽しんで貰える様に努力をしている。食事の片付けも協力をして貰える時にはお願いをしている。準備については協力をお願い出来る方が居るものの職員ばかりが行っている状態であり力を活かす事が出来ていない。	外出行事は、外食を取り入れることで楽しみごとの一つになっている。又、日々の食事職員と利用者が同じ食卓につき、楽しく食事ができような雰囲気作りを大切にしている。重度化に伴いできることが少なくなりつつあるが、能力に合わせて協力してもらおうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、その人に合わせた量を提供している。水分量についても個人に最低限必要とする量を体重から割り出し対応をしている。毎日、10時の時間に好みの飲み物を提供する事も補給も含め行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に任せており口腔状態まではチェック出来ていない。日々の様子を振り返ると、促しのみで口腔ケアを行ったかの確認不足の事がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態を視ていき対応に努めている。去年も、様子・検討を経て紙パンツから綿パンツへ対応となった方がいる。体力面の事を理由に遠慮して貰っている事もあり、この面に対しては対応、十分ではない。	排泄チェック表を基に声かけ・誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。リハビリパンツの使用など本人の能力に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた対応までは出来ていない。運動・活動的にも十分ではなく、職員によっても差がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入る希望に対応出来ている方も居る。曜日に関しては、勤務表の状況を優先して貰っている。時間帯についても、職員の配置を理由に日中帯として貰っている。	週2回は入浴できるようにしている。フロアを中心に「今日は入浴日」「明日入浴日」などの手作りのボードを毎日掲示し、日時の理解と共に楽しみごとになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠の妨げにならない程度に午前午後30～1時間を目安に休息を図ったり、体調を見て細やかに臥床を促している。冷え症の方には湯たんぽの利用・保温性のあるシーツの購入を行っている。(この場合のシーツ購入は自己負担となる。)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の量が多く全ての薬に対する理解には限度があるが臨時薬・便秘薬は比較的記憶がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握は出来てはいても力を活かすまでは出来ていない。後の内容に関しても十分ではなく出来る限り行っている状態。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	殆ど行えていない。希望が合っても人員不足・直ぐに使用が出来る車が無い・家族の協力が難しい事などにより入居後に徐々に希望が無くなっていく事が多い。御家族に依っては外食へ連れて行って下さる方も居る。日常的には難しい為、外出行事を計画し対応している。地域の方からの協力は難しい。	夏場は毎月外出行事を取り入れ、日常的な散歩の他に、おやつの買い出しに近くのスーパーに買い物に行ったりと外出の機会を多くしている。冬期間は大雪やインフルエンザなどで外出が難しくなっている。家族の協力なども考慮しながら年間の行事計画を検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状況により対応をしている。所持をしている方に関しては見守りの下、支払いを本人に任せ困って支払いの出来ない時に手助けをする様にしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望はあっても、自ら電話を掛けたがる方が余り居ない。手紙のやり取りを行いたがる方が最近では居ない。居る場合、代筆など対応は行える。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激のある様な光・広さは無いと思われる。室温については、入居者により最大限に上げてしまう方も居る為、各居室の室温計を見ながら調節をしている。音に対しては、職員の音の出が多く、煩い。注意に努め様としてはくれるが、継続した対応が出来ていない。季節感については雛人形など飾ったりしているが他の季節感については不十分。	リビングを中心に居室があり、自由に行き来できるようになっている。対面式のキッチンでありソファで寛ぎながら五感刺激を受けている。壁には利用者の絵や習字、行事の写真が貼られ、話題の材料となることも多く、楽しんで暮らしていけるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・サイドテーブルを設置し気兼ねなく過ごせるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持込が可能で有る事は伝えている。持込に関しては本人・家族で決めて貰っている。	各居室にはベッド・整理タンス・ロッカーは備えられており、椅子など各自思い思いの品物を持ってきてもらうようにしている。写真や絵などが室内に張られ、自宅であることを意識してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置・バリアフリーにて行動的には制限の無い作りにはなっている。			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム らい鳥		
所在地	北海道旭川市末広4条7丁目5番5号 末広介護支援館ANNEX2・3階		
自己評価作成日	平成24年3月6日	評価結果市町村受理日	平成24年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員・入居者のみなさんとふれあう時間を設け、みんなで楽しむ時間がある点。</li> <li>・ひとりひとりに合わせた生活の行動を一緒にいき、いつまでも行えて行ける様に支援し、本人の生活維持力を保つ様にしている点。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901407&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901407&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階 アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中には組み立てられており共有もしている。実践としては実際には不十分。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会主体のふれあいサロンに2カ月毎に参加していたが、去年の夏頃より職員不足で参加できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行えていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアへの取り組みに対応している。必要となる場合においては十分に検討し廃止に向けて細やかな検討に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会を毎年設けて管理者・職員共に学んでいる。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	去年、成年後見制度についての講習会にケアマネ・リーダー・職員・管理者が参加している。話し合い・活用は行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約書に目を通してもらいながら口頭での説明を必ず行っている。不安の確認までは出来ていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から運営に関して意見を介す機会はいまだに無し。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案を聞く機会を設けた事はない。業務に関する意見・提案などは日頃から有るものの運営という点での意見というのは難しい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表の取り入れ・勤務状況・時間などの把握はされている。職場環境・条件の整備についても極力対応を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所主体の参加はあり。ケアの実際の把握・力量の把握については難しい点がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加に留まる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションが取れている分には対話を設けており難しい分には日頃の状態を見て対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に利用して行っている。状況により都度行っている事もある。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り対応に努めている。本人・家族からの意向がない場合においても状況を見、支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉での表現は難しいが介護のみの関係性とは見えてはいない。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援の形は多様ではあるが出来る範囲での協力をして下さっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来訪される分には対応をしている。馴染みの場所に行きたがる事はなく対応をした事がない。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、全員でおやつの時間を利用して関わり合いの支援をしている。具体的ではないが、何かしらの支えあい日々かと思われる。互いの関係性についても把握は出来ている。			

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後に支援を対応した事はなかった。終了後に何かあれば連絡ください・・・との言葉は毎回伝えてはいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望する思いを大切にすると他にケアプラン作成時に必ず職員全体で対象者の意向を汲み捉える検討会を開いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聞き取りを行ったり・日ごろの話の中で把握をしてはいるが、これまでのサービス利用の状況については把握をした事が無い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排日一人一人に記録を録っておりひに二度状況を申し送っている。毎年基本情報の記入を行い職員全体で把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への意向確認・見極めを含む本人からの意向を軸に課題・ケアの方向性を検討・計画している。モニタリングについては毎月担当者により行い日々の生活の様子・日々の発言から察しモニタリングしケアマネ以外の職員も関わる事で内容の状況把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時に気づき・情報確認の話を行ったりする記録へのケアの結果・気づき・工夫は不足している。様子に関しては記入できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支えていた地域資源の把握は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	こちらから掛かりつけ医を決めた事は無いが施設としての連携医療機関の説明をし家族の判断・承諾の許に受診をしている。その他の受診についても同様である。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週主治医による往診がありそちらが主体となっている為、訪問看護師への相談は少ない。訪問看護師による記録チェックはあり。記録上の状態チェックはしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	中々出来ていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針についての承諾は契約時に一緒に説明し結んでいるが終末期に関しては中々出来ていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は全入居者・全職員を対象として去年から毎月行っているが地震・水害においては訓練は出来てはいない。地域との協力体制も築けてはいない。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮している。固有名詞を使うのを控えたりしている。注意をしてはいても咄嗟の時の言葉掛けが少々厳しい面も見られる為、十分ではない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事を行う前には言葉を掛け返事をもらっている。日常生活の中での希望・意思表示は余り見られない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的行動が見られない方が多く促す行為が主立っている。この為、どちらかと言うと職員側のペースになってしまっている。その日ごとについての希望を話題として話を余りした事が無い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色の洋服を用意したり・髪についても好む色のカラーリングを介助で行っている。朝の洗顔後に化粧水を使う方には切らさない様に支援している。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食材・献立を立て対応に努めてはいる。栄養に関しては職員等により立てている為、計算などは出来ていないが気を配っているつもりである。調理までは行えていないものの食器の後片付けはほぼ全員で行っている。簡単な、手拭畳み・お茶や水を汲んで貰う等の準備もして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事を提供している。水分量に関しても体重から一日の最低限度必要とする量を割り出し水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に対して食後の歯磨き・うがいを行って貰っている。口腔内の状況に関しては、チェックのしている方とそうではない方がいる。磨きの不足する方には、本人の行った後に介助をして予防をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の事に関しては対応が出来ていると思われる。オムツの事に関しては、その段階には至っていない様な方が居ると、振り返り思う。(紙パンツから綿パンツで可能かと思われる方)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食材を活用し献立を自分たちで考え調理をしている。運動に関しても、可能な方に対し階段昇降運動を行い予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に添えている人もいる。曜日や時間帯については職員の配置に関係している事から勤務表に合わせて貰っている。個々の支援までは出来てはいない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠の妨げにならない範疇で午前午後には臥床をうながしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬が多く、全てにおいての把握が難しい。出来る限りの把握には努めてはいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、何らかの役割・楽しみとしている仕事を持っていたり、その人の出来る事を役割として行っている。これをしていく事で気分転換となっている人もいる。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら希望する事が無く、こちらからの誘いで出かけるという状況。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族より、こちらに預ける事を希望されている為、対象者がいない。支援していく事は可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今の所、希望・その様な気持ちを抱いている方がいないが、今後、その様な状況に合った場合には対応は行える。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・色・広さについては問題ないと思われる。音に対しては、台所での音を立てて居る事が多い。温度に関しては、夜間に上昇させたままである事が多く調節を忘れている事が多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブルを設置して入るが余り来る事が無い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持込は可能な事を伝えてはいる。持込については本人と家族で決めて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置・棟内バリアフリーの為、行動的には制限のない作りである。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム らい鳥

作成日：平成 24年 3月 29日

市町村受理日：平成 24年 4月 9日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	問題点としては、人材不足により時間に余裕が無く計画する迄には至れない点。 課題としては、人材不足の中で、どう取り組んでいくか。	次年度中には、一度でも開催が出来るように努める。	次年度も町内会加入の働きかけをしていくと共に加入できない場合の方向性の検討を図る。	1年
2	35	問題点としては、備蓄の為の予算は貰えない点。 課題としては、何処から捻出をしていくか。	2、3日を目安とした飲食物資・オムツ等の確保。	必要物資のリストアップ・何処から捻出するかの検討。 火災の他の災害においてどのような対応・訓練をしていくか検討をしていく。	1年
3	2	問題点として、地域資源活用を十分には検討して来なかった点。 課題として、どのような資源が残されているかの模索。	入居者・職員等が地域の方とふれあう機会が増える。	地域で開催されるお祭りを行事計画の一つとして取り組む等の検討をしていく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。